

世界大会でメダルを取りたい



世界大会で強豪チームとぶつかり合う



試合では諦めないプレーを心掛けている



世界大会で活躍

昨年5月、女子U25世界車いすバスケットボール選手権大会がタイで開かれた。市内在住の碓井琴音さんは代表選手として出場し、予選の南アフリカ戦でチーム最高得点を挙げるなど活躍した。日本代表は決勝トーナメントへ進み4位と健闘。惜しくもメダルは逃したが、過去最高の成績を取めた。

バスケットボールひとすじに

小学1年の時にミニバスケットボール少年団に入団。中学校でもバスケットボール部に入り、仲間とともに全国大会を目指したが、2年の時、右脚に異変を感じるようになった。くるぶしの痛みが続き、病院で骨肉腫と診断された。家族や担当医と話し合い、手術で足を切断し義足を装着することに決めた。術後の治療とリハビリを経て、日常生活に戻った。歩く

車いすバスケットボール U-25女子日本代表

碓井 琴音さん

うすい・ことね
青葉町在住。
広葉中学校、恵庭北高校を卒業し、現在は北海道教育大学札幌校4年。中学2年の時に骨肉腫のため、右足のひざ下を手術で切断した。治療後、高校に進学し3年から車いすバスケットボールを始める。現在、「札幌ノースウィンド」と、東北地方の「SCRATCH(スクラッチ)」の2チームに所属している。市のスポーツ推進審議会臨時委員も務めている。

ことに不自由はなく、学校の球技大会にも出られたが、バスケットボールはできなくなった。「チームの仲間ともう一緒に大会に出られないと思った時が、一番つらかったですね」と話した。

高校ではバスケットボール部のマネージャーとしてチームを支えた。3年の夏に友人から誘われ、車いすバスケットボールの体験会に参加した。常時車いすを使用していなくても競技ができる聞き、意欲が湧いて始めることに。通常の競技とルールが違うなど戸惑うこともあったが、徐々に慣れていった。本格的に取り組むため、アルバイトをして競技用車いすも購入した。

大学進学後は、特別支援教育を学ぶ傍ら男子選手と一緒に練習し実力を伸ばした。試合に出場する機会も増え、日本車いすバスケットボール連盟の強化指定選手に選ばれるまでになった。

誰もがスポーツを楽しめる環境に

小学校などに向いて競技の魅力を紹介しながら、障がいへの理解も呼び掛けている。

3月7日に芸術文化ホールでボールパーク構想推進シンポジウム「スポーツによるまちづくりを考える」が開かれる予定だ。市のスポーツ推進審議会臨時委員の碓井さんは、パネリストの一人として参加する。障がいを持つ立場から、誰もが気軽にスポーツを楽しみ、健康で暮らせる環境づくりについて話したいです」と語った。パラスポーツ(障がい者スポーツ)を巡る課題についても伝えたいそう。

「車いすバスケットボールを始めてから多くの方と出会い、さまざまなことを学びました。これからも練習を続け、世界大会でメダル獲得を目指します」と話している。夢に向かって努力する碓井さんを応援したい。

*記事は2月上旬の内容です。

